



早生の直播栽培向き良食味多収水稻品種「ちほみのり」

水田作研究領域
太田 久稔（おおた ひさとし）

稲作において経営規模拡大や所得向上を図るためには、どのような品種を選択するのがポイントになります。一定水準の食味・品質を有し収量性が向上した品種であることに加え、栽培の省力・生産コスト化に対応できるよう直播栽培に適した品種の選択が重要です。そこで、農研機構は、耐倒伏性に優れ、多収で良食味の特性を有し、直播栽培にも適している品種「ちほみのり」を育成しました。

特徴

「ちほみのり」の出穂期や成熟期は「あきたこまち」よりやや早く、稈長は短いため直播栽培において倒伏が少ない特徴があります（表、写真）。また、精玄米重は「あきたこまち」より多収です。いもち病抵抗性は「あきたこまち」より強く、葉いもち抵抗性は“強”、穂いもち抵抗性は“やや強”です。玄米外観品質と炊飯米の食味は「あきたこまち」と同等です（表）。

品種名	ちほみのり	あきたこまち	
出穂期(月・日)	7.28	7.31	
成熟期(月・日)	9.11	9.13	
稈長(cm)	76	89	
穂数(本/m ²)	473	451	
耐倒伏性	強	やや弱	
いもち病抵抗性	葉いもち	強	中
	穂いもち	やや強	やや弱
耐冷性	中	中	
精玄米重(kg/a)	69.3	62.5	
玄米重標準比(%)	111	100	
玄米千粒重(g)	23.3	22.6	
玄米外観品質	上中	上中	
炊飯米食味	上中	上中	

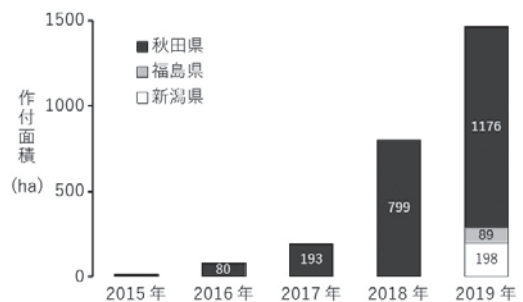
▲表／「ちほみのり」の栽培特性（2009年～2013年の平均）

栽培上の注意点

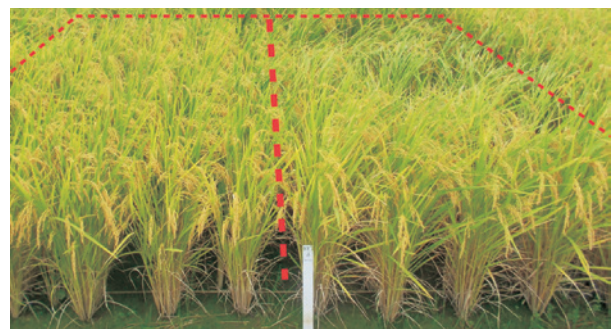
耐冷性は「あきたこまち」と同等のため、冷害の発生しやすい地域での栽培は避けてください。また、極端な多肥栽培では倒伏のおそれがあります。やや穂発芽し易いため、刈り遅れないよう注意が必要です。

普及状況

「ちほみのり」は2015年に秋田県、2019年に福島県、新潟県、2020年に岩手県、宮城県、山形県、兵庫県の産地品種銘柄に設定されています。2019年の作付け面積は、秋田県1176ha、新潟県198ha、福島県89ha、計1463haと推定され（図）、中食・外食等への利用が広がっています。



▲図／「ちほみのり」の推定作付け面積の推移



▲写真／「ちほみのり」の直播栽培における草姿（2013年、標肥表面条播）
左：ちほみのり、右：あきたこまち